

同行二人

同行二人（「ともに旅をする」）という言葉が、四国の巡礼者が被る笠や携帯する杖に書かれています。これは、巡礼者には常に、遍路の創始者と考えられている僧で 88 ヶ所の寺全てで敬われている弘法大師の魂が付き添っているという信念を言葉にしたものです。弘法大師は全ての巡礼者を見守り、困難な時には苦痛を和らげて救いの手を差し伸べると考えられています。杖（金剛杖）は弘法大師の魂が形になったものと考えられ、巡礼者はこの杖をととても丁寧に扱うことが求められています。それには、毎日の最後に杖先を洗うことが含まれます。古の巡礼者は、夜に休むために宿に入る準備をする際に、自分の足を洗うより先に弘法大師の「足」を象徴的に洗っていました。